

U.S. Indicators

発表日: 2018年11月16日(金)

米国 18年10月鉱工業生産

～拡大モメンタムが一段と強まった～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率		生産能力
	前月比	前年同月比							全産業	製造業 (SIC)	
17/10	+1.5	(+2.7)	+1.3	+1.4	+3.2	+1.7	+1.3	+0.9	+76.8	+75.2	+0.1
17/11	+0.5	(+3.4)	+0.2	+2.0	+0.3	+1.1	+0.3	▲0.3	+77.1	+75.3	+0.1
17/12	+0.5	(+2.9)	▲0.0	+1.1	+3.2	+1.4	▲0.1	+0.7	+77.3	+75.2	+0.1
18/01	▲0.3	(+2.8)	▲0.5	▲1.0	+2.1	▲0.2	▲0.7	▲0.4	+77.0	+74.7	+0.1
18/02	+0.5	(+3.7)	+1.5	+2.8	▲9.6	▲0.6	+1.7	+4.0	+77.2	+75.7	+0.1
18/03	+0.5	(+3.6)	▲0.1	+1.1	+4.2	+0.6	▲0.2	+2.8	+77.5	+75.6	+0.2
18/04	+1.1	(+3.8)	+0.6	+0.9	+5.8	+0.5	+0.7	▲2.1	+78.2	+75.9	+0.2
18/05	▲0.8	(+3.0)	▲1.0	+1.0	▲2.5	▲0.0	▲1.0	▲8.5	+77.5	+75.1	+0.2
18/06	+0.6	(+3.6)	+0.7	+1.8	▲1.6	+2.0	+0.7	+7.1	+77.8	+75.6	+0.2
18/07	+0.4	(+4.1)	+0.3	+0.9	+0.1	+0.5	+0.4	▲2.5	+78.0	+75.7	+0.2
18/08	+0.8	(+5.4)	+0.4	+2.4	+1.1	+0.4	+0.4	+3.6	+78.5	+75.9	+0.2
18/09	+0.2	(+5.6)	+0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.0	+0.2	+1.3	+78.5	+76.1	+0.2
18/10	+0.1	(+4.1)	+0.3	▲0.3	▲0.5	+0.0	+0.3	▲2.8	+78.4	+76.2	+0.2

(注)カッコ内は前年比

18年10月の鉱工業生産は、前月比+0.1%（9月同+0.2%）と市場予想の同+0.2%を下回ったものの、5-9月合計で0.4p上方改定されており、実態は予想よりも強い内容。鉱業が原油価格の下落を受けマイナス幅を拡大したうえ、公益事業が悪天候などにより前月比▲0.5%と減少幅を拡大した。一方、製造業が非鉄、化学、一次金属、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、航空機・その他輸送設備等の拡大によって前月比+0.3%（5-9月合計0.1%p上方改定）と市場予想の同+0.2%を上回った。FRBの試算によると、ハリケーン“フローレンス”、“マイケル”の鉱工業生産への影響は、0.1%弱にとどまった。

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が+5.9%（前月+4.7%）、製造業生産が+4.7%（前月+3.5%）と加速し高い伸びを維持しており、生産の拡大モメンタムは力強さを増した。米国の生産活動は、関税引き上げ合戦など貿易戦争の影響を受けながらも、内外需要の拡大によって堅調さを維持していることがハードデータでも確認された。

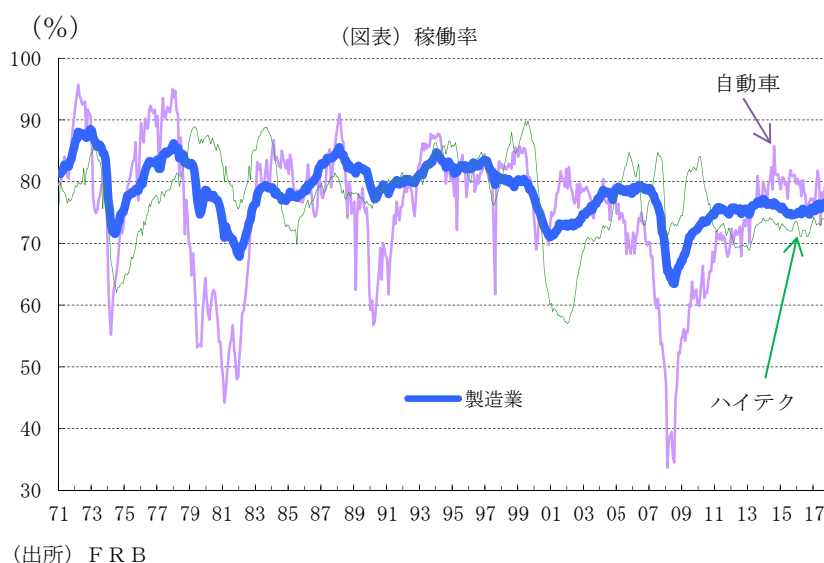
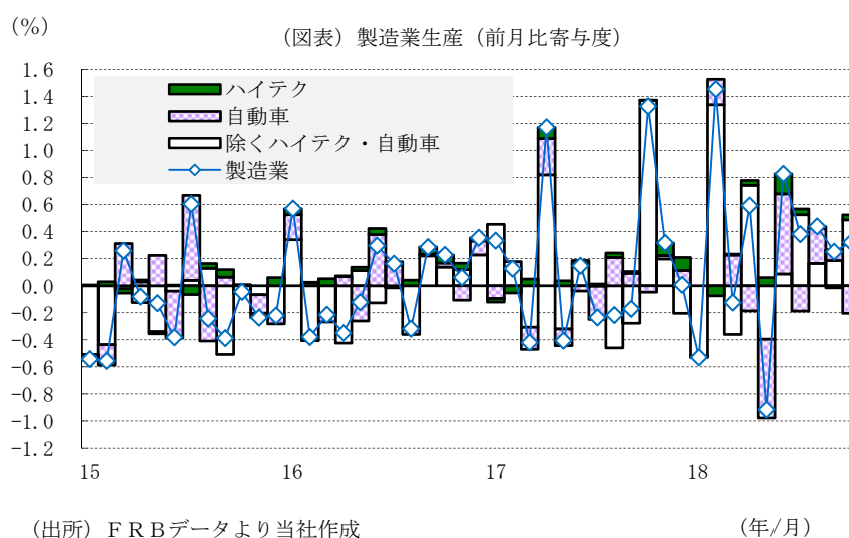
業種別にみると、木材、自動車・同部品、印刷・同サポート、石油・石炭、その他製造業が減少に転じたうえ、電気設備・部品、アパレルが減少幅を拡大した。また、プラスチック・ゴム製品が鈍化した。一方、非鉄、その他耐久財、繊維、紙、化学が拡大に転じたほか、一次金属、加工金属、一般機械、コンピューター・電子機器、航空機・その他輸送設備、家具・関連製品、食品・飲料・タバコが加速した。

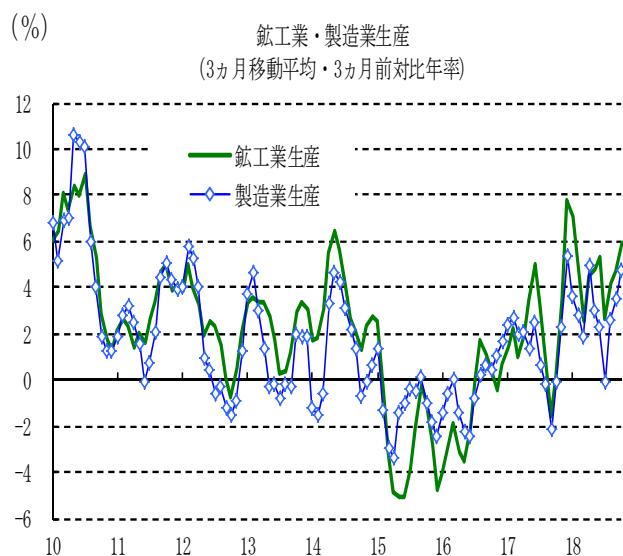
稼働率では、設備投資の加速による生産能力の拡大が続いた一方、生産が鈍化したことを背景に鉱工業全体が78.4%（前月78.5%）と低下した（市場予想78.2%）。また、製造業は生産の拡大によって76.2%（前月76.1%）と上昇した。業種別では、自動車が77.6%（前月77.9%）、コンピューター・電子機器が71.5%（前月71.4%）と低下した一方、加工金属が81.9%（前月81.8%）、一般機械が80.7%（前月79.6%）、家具は76.9%（前月75.9%）、一次金属が73.5%（前月71.3%）と上昇した。

四半期でみると、10月の鉱工業生産は7-9月期比年率+1.9%と7-9月期の前期比年率+4.7%から減速した。製造業生産が7-9月期比年率+2.4%（7-9月期前期比年率+3.5%）と小幅鈍化したうえ、鉱業が7-9月期比年率+1.5%（7-9月期前期比年率+17.1%）と大幅に鈍化し、公益事業が7-9月期比年率▲0.8%（7-9月期前期比年率▲4.3%）と減少を続けた。

18年の生産活動は、高い水準のドル実効レートや貿易戦争によるコスト増加の影響を受けながらも、内外需要の拡大傾向の持続や在庫に過剰感がないこと等を背景に加速すると見込まれる。18年の製造業生産が+2.4%（17年+1.2%）、鉱工業生産が+3.9%（同+1.6%）と予想。

19年には、製造業生産が+2.5%、鉱工業生産が+3.4%と米国内需要が基本的には堅調さを維持するなか、緩やかな拡大を見込む。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。